

(様式第 10)

29 岐大病総第 94 号
平成 29 年 10 月 5 日

厚生労働大臣 加藤 勝信 殿

国立大学法人岐阜大学医学部附属病院
病院長 小倉 真治

国立大学法人岐阜大学医学部附属病院 病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 28 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒501-1194 岐阜県岐阜市柳戸 1 番 1
氏 名	国立大学法人岐阜大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

国立大学法人岐阜大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒501-1194 岐阜県岐阜市柳戸 1 番 1	電話(058)230-6000
-----------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	①	無	
内科と組み合わせた診療科名等			
1呼吸器内科	②消化器内科	③循環器内科	4腎臓内科
5神経内科	6血液内科	7内分泌内科	8代謝内科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	11リウマチ科	
診療実績			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1呼吸器外科 ②消化器外科 3乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 ⑥心臓血管外科 7内分泌外科 8小児外科	
診療実績	

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 2矯正歯科 ③口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1形成外科 2病理診断科 3リハビリテーション科 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21
--

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
37床	床	床	床	577床	614床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	335人	30.5人	365.5人	看 護 補 助 者	55人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	12人	2.5人	14.5人	理 学 療 法 士	15人	臨床検査技師	51人
薬 剤 師	50人	0人	50人	作 業 療 法 士	3人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	6人	そ の 他	0人
助 産 師	16人	2.3人	18.3人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	547人	28.4人	575.4人	臨 床 工 学 士	14人	医療社会事業従事者	5人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	16人
歯科衛生士	2人	0人	2人	歯 科 技 工 士	2人	事 務 職 員	169人
管理栄養士	13人	1.5人	14.5人	診 療 放 射 線 技 師	42人	そ の 他 の 職 員	20人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計の小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	21人	眼 科 専 門 医	11人
外 科 専 門 医	31人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	12人
精 神 科 専 門 医	5人	放 射 線 科 専 門 医	14人
小 児 科 専 門 医	16人	脳 神 経 外 科 専 門 医	11人
皮 膚 科 専 門 医	11人	整 形 外 科 専 門 医	15人
泌 尿 器 科 専 門 医	11人	麻 酔 科 専 門 医	9人
産 婦 人 科 専 門 医	17人	救 急 科 専 門 医	15人
		合 計	199人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計の小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (小倉 真治) 任命年月日 平成26年4月1日

平成29年2月に「医療安全管理規程」を改正し、病院長候補者・現病院長以降の病院長も医療安全管理委員会の構成員とするよう併せて規則改正済。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	485.4人	7.7人	493.2人
1日当たり平均外来患者数	1,268.0人	71.9人	1,339.8人
1日当たり平均調剤数	854剤		
必要医師数	124.1人		
必要歯科医師数	(4.6) 5人		
必要薬剤師数	(16.4) 17人		
必要(准)看護師数	293.0人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	137.23m ²	鉄筋コンクリート	病床数	6床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	67.36m ²		病床数	5床
	[移動式の場合]	台数	7台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床積	54.63m ²			
		[共用室の場合]	共用する室名			
化学検査室	368m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学自動分析装置			
細菌検査室	106m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動細菌検査装置			
病理検査室	352m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 生物顕微鏡、病理診断システム			
病理解剖室	252m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ルーム型遺体保冷庫			
研究室	711m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 超低温フリーザー、分析装置、滅菌装置など			
講義室	656m ²	鉄筋コンクリート	室数	11室	収容定員	427人
図書室	42m ²	鉄筋コンクリート	室数	1室	蔵書数	165,917冊

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

	紹介率	71.8%	逆紹介率	49.2%
算 出 根 拠	A：紹介患者の数			10,696人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数			8,378人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数			1,531人
	D：初診の患者の数			17,028人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法 原発性乳がん(エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る。)	0人
アルテプラザーゼ静脈内投与による血栓溶解療法 急性脳梗塞 (当該疾病の症状の発症時期が明らかでない場合に限る)	1人
術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツスマブ静脈内投与の併用療法 切除が可能な高度リンパ節転移を伴う胃がん(HER2が陽性のものに限る。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	9	56	ペーチェット病	52
2	筋萎縮性側索硬化症	36	57	特発性拡張型心筋症	10
3	脊髄性筋萎縮症	6	58	肥大型心筋症	1
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	7	60	再生不良性貧血	20
6	パーキンソン病	81	61	自己免疫性溶血性貧血	1
7	大脳皮質基底核変性症	4	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	0
8	ハンチントン病	2	63	特発性血小板減少性紫斑病	55
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トウス病	0	65	原発性免疫不全症候群	13
11	重症筋無力症	44	66	IgA腎症	3
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	14
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	52	68	黄色靱帯骨化症	4
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	15	69	後縦靱帯骨化症	55
15	封入体筋炎	0	70	広範脊柱管狭窄症	10
16	クドウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	56
17	多系統萎縮症	21	72	下垂体性ADH分泌異常症	7
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	40	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	6	74	下垂体性PRL分泌亢進症	7
20	副腎白質ジストロフィー	2	75	クッシング病	1
21	ミトコンドリア病	4	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
22	もやもや病	29	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	16
23	プリオン病	2	78	下垂体前葉機能低下症	43
24	亜急性硬化性全脳炎	1	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	6	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	111
30	遠位型ミオパチー	1	85	特発性間質性肺炎	15
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	3
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	0
34	神経線維腫症	20	89	リンパ管筋腫症	1
35	天疱瘡	27	90	網膜色素変性症	7
36	表皮水疱症	4	91	バッド・キアリ症候群	1
37	膿疱性乾癬(汎発型)	18	92	特発性門脈圧亢進症	2
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	2	93	原発性胆汁性肝硬変	13
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	5
40	高安動脈炎	17	95	自己免疫性肝炎	12
41	巨細胞性動脈炎	0	96	クローン病	96
42	結節性多発動脈炎	6	97	潰瘍性大腸炎	177
43	顕微鏡的多発血管炎	24	98	好酸球性消化管疾患	2
44	多発血管炎性肉芽腫症	8	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	7	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	3	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	3	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	0	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	182	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	92	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	188	106	クリオピリン関連周期熱症候群	1
52	混合性結合組織病	24	107	全身型若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	17	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	10	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	2	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	8
113	筋ジストロフィー	1	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	1
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	0	167	マルファン症候群	0
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	1
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ピッカーstaff脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	1
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	1	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	0	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	3
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	0	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	1
222	一次性ネフローゼ症候群	5	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	10
224	紫斑病性腎炎	1	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	4	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	6
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	1	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膝炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	4
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	1
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	2
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	2	305	遅発性内リンパ水腫	1
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	4

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナパン病	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・呼吸ケアチーム加算
・歯科外来診療環境体制加算	・病棟薬剤業務実施加算1
・特定機能病院入院基本料 (一般病棟) (7対1)	・データ提出加算2
・特定機能病院入院基本料 (精神病棟) (13対1)	・退院支援加算2
・臨床研修病院入院診療加算 (医科) (基幹型)	・精神疾患診療体制加算1
・臨床研修病院入院診療加算 (歯科) (単独型又は管理型)	・精神疾患診療体制加算2
・救急医療管理加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・超急性期脳卒中加算	・救命救急入院料3 (注3、注5、注7の加算)
・妊産婦緊急搬送入院加算	・特定集中治療室管理料1 (注2の加算)
・診療録管理体制加算1	・新生児特定集中治療室管理料2
・医師事務作業補助体制加算1 40対1	・新生児治療回復室入院医療管理料
・急性期看護補助体制加算 (50対1)	・小児入院医療管理料2 (注2の加算)
・看護補助加算2 (精神病棟) (50対1)	・入院時食事療養(I)
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算1	・
・無菌治療室管理加算1	・
・精神科応急入院施設管理加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・感染防止対策地域連携加算	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・心臓ペースメーカー指導管理料 植込型除細動器移行加算	・検体検査管理加算(Ⅳ)
・高度難聴指導管理料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・糖尿病合併症管理料	・植込型心電図検査
・がん性疼痛緩和指導管理料	・時間内歩行試験及びシヤトルウォーキングテスト
・がん患者指導管理料1	・ヘッドアップティルト試験
・がん患者指導管理料2	・皮下連続式グルコース測定
・がん患者指導管理料3	・長期継続頭蓋内脳波検査
・移植後患者指導管理料 臓器移植後	・神経学的検査
・移植後患者指導管理料 造血幹細胞移植後	・補聴器適合検査
・糖尿病透析予防指導管理料 注1 加算	・ロービジョン検査判断料
・外来リハビリテーション診療料	・コンタクトレンズ検査料1
・外来放射線照射診療料	・小児食物アレルギー負荷検査
・ニコチン依存症管理料	・センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る)併用法
・がん治療連携計画策定料	・センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る)単独法
・がん治療連携管理料	・CT透視下気管支鏡検査加算
・外来がん患者在宅連携指導料	・画像診断管理加算2
・肝炎インターフェロン治療計画料	・ポジトロン断層撮影
・薬剤管理指導料	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・医療機器安全管理料1	・CT撮影及びMRI撮影 3テスラ (第1MRI)
・医療機器安全管理料2	・CT撮影及びMRI撮影 3テスラ (第2MRI)
・医療機器安全管理料(歯科)	・CT撮影及びMRI撮影 1.5テスラ (第3MRI)
・歯科治療総合医療管理料	・CT撮影及びMRI撮影(64列以上のマルチスライスCT)1台目 第238号(第3CT室)
・持続血糖測定器加算	・CT撮影及びMRI撮影(16以上64列未満のマルチスライスCT)2台目 (CTシミュレータ室)
・造血器腫瘍遺伝子検査	・CT撮影及びMRI撮影(16以上64列未満のマルチスライスCT)3台目 (血管造影室)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・CT撮影及びMRI撮影(64列以上のマルチスライスCT)4台目 第239号(第2CT室)
・検体検査管理加算(Ⅰ)	・CT撮影及びMRI撮影(64列以上のマルチスライスCT)5台目 (第1CT室)

施設基準の種類	施設基準の種類
・冠動脈CT撮影加算(第1CT室(64列)・第2CT室(64列)・第3CT室(64列))	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・外傷全身CT加算(第1CT室(64列)・第2CT室(64列)・第3CT室(64列))	・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算(頭蓋内腫瘍摘出術)
・大腸CT撮影加算(第1CT室)	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術
・大腸CT撮影加算(第2CT室)	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・大腸CT撮影加算(第3CT室)	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術
・心臓MRI撮影加算	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・乳房MRI撮影加算(第1MRI室・第MRI室・第3MRI室)	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・外来化学療法加算1	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・無菌製剤処理料	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
・心大血管疾患リハビリテーション料 初期加算	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・脳血管疾患等リハビリテーション料 初期加算	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後) 一次一次的再建
・廃用症候群リハビリテーション料(I)	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後) 一次二次的再建及び二次再建
・廃用症候群リハビリテーション料 初期加算	・経皮的冠動脈形成術
・運動器リハビリテーション料(I)	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテル
・運動器リハビリテーション料 初期加算	・経皮的冠動脈ステント留置術
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・経皮的中隔心筋焼灼術
・呼吸器リハビリテーション料 初期加算	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・がん患者リハビリテーション料	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術(植込型心電図記録計移植術)
・集団コミュニケーション療法料	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術(植込型心電図記録計摘出術)
・歯科口腔リハビリテーション料2	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調治療指導管理料に限る。)	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術(レーザーシースを用いるもの)
・医療保護入院等診療料	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・一酸化窒素吸入療法	・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・手術用顕微鏡加算	・経皮的大動脈遮断術
・歯科技工加算	・ダメージコントロール手術
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算(皮膚悪性腫瘍切除術)	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。) 一次再建及び二次再建	・体外衝撃波胆石破碎術
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る))	・腹腔鏡下肝切除術

施設基準の種類	施設基準の種類
・腹腔鏡下肝切除術(亜区域切除、1区域切除(外側区域切除を除く。)、2区域切除及び3区域切除以上のもの)(3、4、5又は6を算定する場合に限る。)	・保険医療機関間の連携による病理診断
・体外衝撃波膵石破砕術	・病理診断管理加算2
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・口腔病理診断料 病理診断管理加算2
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	・歯科矯正診断料
・同種死体腎移植術	・顎口腔機能診断料〔顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)]の手術前後における歯科矯正に係るもの]
・生体腎移植術	
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)	
・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術	
・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術(胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。))	
・輸血管理料 I	
・輸血適正使用加算	
・貯血式自己血輸血管理体制加算	
・自己生体組織接着剤作成術	
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	
・歯周組織再生誘導手術	
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	
・歯根端切除手術の注3	
・麻酔管理料(I)	
・麻酔管理料(II)	
・放射線治療専任加算(第1リニアック室・第2リニアック室)	
・外来放射線治療加算	
・高エネルギー放射線治療	
・1回線量増加加算	
・強度変調放射線治療(IMRT)(第1リニアック室・第2リニアック室)	
・画像誘導放射線治療(IGRT)(第1リニアック室)	
・直線加速器による放射線治療(定位放射線治療)(第2リニアック室)	
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算(第1リニアック室)	

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補 委	元
アリルハイドロカーボン受容体阻害剤による新規癌免疫療法	二宮 空暢	輸血部	1,430,000	補 委	文部科学省
クモ膜下出血後の白質傷害の機序の解明と新規治療法の探索	江頭 裕介	脳神経外科	1,430,000	補 委	文部科学省
腱・腱鞘滑膜細胞特異的遺伝子改変マウスを利用した腱疾患の治療開発	河村 真吾	整形外科	1,430,000	補 委	文部科学省
骨細胞におけるメカノセンサーとしてのカルシウム活性化カリウムチャンネルの機能解析	秋山 治彦	整形外科	3,250,000	補 委	文部科学省
MODYにおける膵β細胞の代償性インスリン分泌の惹起経路の解明	武田 純	第3内科	4,420,000	補 委	文部科学省
ヒト歯髄幹細胞からのiPS細胞誘導の効率化・良質化の検討	柴田 敏之	歯科口腔外科	2,990,000	補 委	文部科学省
東南アジアの噛みタバコ習慣と口腔粘膜DNAメチル化異常の擦過標本による検討	柴田 敏之	歯科口腔外科	3,120,000	補 委	文部科学省
臨床応用を目的とした放射線治療における再酸素化とエネルギー代謝の解明	松尾 政之	放射線科	3,380,000	補 委	文部科学省
敗血症性心機能障害に対する細胞特異的ホーミングペプチドを用いた新規治療の確立	岡田 英志	高次救命治療センター	9,620,000	補 委	文部科学省
次世代型電子カルテシステムによる高齢者多剤処方のは正効果に関する研究	林 祐一	神経内科・老年内科	780,000	補 委	文部科学省
肝癌前駆・幹細胞と癌微小環境構成細胞の解明：肝癌撲滅を目指して	末次 淳	第1内科	1,430,000	補 委	文部科学省
脳小血管病に関わる抗血管内皮抗体の同定と機能解析：病態解明とバイオマーカーの開発	木村 暁夫	神経内科・老年内科	1,820,000	補 委	文部科学省
ムコ多糖症に対する新規治療薬の安全性と効果に関する研究	折居 建治	新生児集中治療部	1,430,000	補 委	文部科学省
クライオパイリン関連周期熱症候群の発症機序の構造生物学的解明	大西 秀典	小児科	1,430,000	補 委	文部科学省
炎症性皮膚疾患における新しい角層バリア機構の解明とその制御	加納 宏行	皮膚科	1,300,000	補 委	文部科学省
Diffusion kurtosis imagingを用いた2型糖尿病発症予測	野田 佳史	放射線科	650,000	補 委	文部科学省
胃癌術後補助化学療法臨床試験における個別化療法を目指したバイオマーカーの策定	吉田 和弘	第2外科	1,560,000	補 委	文部科学省

血液-脳関門の機能維持からみた中枢神経保護の分子解析	田辺 久美子	麻酔科疼痛治療科	1,040,000	補委	文部科学省
気道炎症の収束機転におけるGABAB受容体の役割	杉山 陽子	麻酔科疼痛治療科	1,040,000	補委	文部科学省
周術期ビッグデータを活用した体温管理の可視化と手術患者アウトカムの知識探索型分析	長瀬 清	手術部	390,000	補委	文部科学省
淋菌咽頭感染の効果的な治療法の確立	安田 満	泌尿器科	2,210,000	補委	文部科学省
卵巣明細胞癌における癌幹細胞の同定とその治療抵抗性メカニズムの解明	森重 健一郎	産科婦人科学	1,300,000	補委	文部科学省
緑内障による失明予防に関する包括的研究	山本 哲也	眼科	1,170,000	補委	文部科学省
ヒト歯髄細胞におけるiPS細胞誘導効率の促進因子の解析	畠山 大二郎	歯科口腔外科	1,560,000	補委	文部科学省
動物因子不含ヒト歯髄由来細胞を用いた脊髄損傷治療モデルの作成	川口 知子 (武田知子)	歯科口腔外科	1,560,000	補委	文部科学省
小腸フルクトース代謝に注目した新規代謝症候群治療法の開発	飯塚 勝美	生体支援センター	1,560,000	補委	文部科学省
悪性黒色腫の抗がん剤耐性におけるスフィンゴ脂質代謝の関与と創薬研究	清島 眞理子	皮膚科	1,820,000	補委	文部科学省
KATPチャネル・オープナーNicorandilによる新規心腎連関抑制療法の確立	西垣 和彦	第2内科	780,000	補委	文部科学省
急性冠症候群の予測のための冠動脈プラークの力学的ストレス解析超音波装置の開発	川崎 雅規	第2内科	1,300,000	補委	文部科学省
免疫介在性脳炎・脳症患者の血清中に存在する抗血管内皮抗体に関する研究	犬塚 貴	神経内科・老年内科	1,430,000	補委	文部科学省
T1 ρ map解析による肝線維化初期群検出プログラムの構築	五島 聡	放射線部	1,040,000	補委	文部科学省
ヘパラン硫酸に着目した変形性膝関節症の新たな病態の解明	松本 和	整形外科	1,300,000	補委	文部科学省
関節形態形成におけるメカニカルストレス応答機序の分子生物学的解析	瀧上 伊織	整形外科	1,040,000	補委	文部科学省
脳血管内皮機能からみた周術期高血糖管理法-脳血管障害防御のための戦略-	飯田 宏樹	麻酔科疼痛治療科	1,560,000	補委	文部科学省
血管内皮細胞特異的ホーミングペプチドによる敗血症に伴う急性腎障害治療の試み	吉田 隆浩	高次救命治療センター	1,560,000	補委	文部科学省
分子イメージングによる非侵襲的口腔癌診断システム確立のための基礎的研究	牧田 浩樹	歯科口腔外科	1,430,000	補委	文部科学省
リコンビナントインブレッド系マウスを用いた膠原病	宮崎 龍彦	病理部	1,430,000	補委	文部科学

がん患者におけるサルコペニア発症の分子的メカニズムの解明	中村 信彦	第1内科	1,300,000	補 委	文部科学省
高血圧・レニン-アンギオテンシン系制御を介した肥満・NASH関連肝発癌抑制	河内 隆宏	生体支援センター	1,690,000	補 委	文部科学省
膵嚢胞液中のmiRNA解析によるIPMNの鑑別診断・悪性化診断	岩下 拓司	第1内科	1,430,000	補 委	文部科学省
アレルギー性メモリーT細胞の選択的除去による新規アレルギー治療概念の創出	池田 貴英	総合内科	1,300,000	補 委	文部科学省
アスパラギン合成酵素欠損症の診断スクリーニング法の確立と治療法の研究	久保田 一生	小児科	1,950,000	補 委	文部科学省
ビタミンK非依存性抗凝固薬が血小板に及ぼす影響に関する研究	辻本 真範	脳神経外科	1,820,000	補 委	文部科学省
糖尿病に対するシロスタゾールによる血栓症・動脈硬化予防効果解析	宮居 雅文	脳神経外科	1,820,000	補 委	文部科学省
周術期における血小板機能に関する研究-抗血小板薬休薬と禁煙の影響の検討	鬼頭 祐子	麻酔科疼痛治療科	910,000	補 委	文部科学省
腎癌由来エクソソームの解析と応用	水谷 晃輔	泌尿器科	1,950,000	補 委	文部科学省
リコモジュリンの抗炎症効果による重症敗血症抑制効果の解析	鈴木 浩大	高次救命治療センター	1,950,000	補 委	文部科学省
重症軟部組織損傷に対する高気圧酸素療法の応用と解析	神田 倫秀	高次救命治療センター	1,950,000	補 委	文部科学省
悪性脳腫瘍におけるIDH1変異とIGFBP7, COLA1の役割	副田 明男	高次救命治療センター	1,300,000	補 委	文部科学省
特発性大腿骨頭壊死症におけるbFGF含有ゼラチンハイドロゲルによる壊死骨再生治療の開発	秋山 治彦	整形外科	53,824,420	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
新生児タンデムマスクリーニング対象疾患の診療ガイドライン改訂、診療の質を高めるための研究	深尾 敏幸	小児科	20,020,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
発症時刻不明の脳梗塞患者に対する静注血栓溶解療法の適応拡大を目指した研究	岩間 亨	脳神経外科	400,000	補 委	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター
臨床がん組織(乳がん・胃がん)における解析	二村 学	第二外科	500,000	補 委	国立研究開発法人 国立がん研究センター
健康で自立的な生活を支援するための身体バランス測定・評価技術の研究	青木 隆明	整形外科	910,000	補 委	総務省東海総合通信局
ステージⅢ胃癌に対する術前診断の妥当性研究				補	公益財団

術前補助化学療法への転換を目指して	吉田 和弘	第二外科	1,040,000	委	法人がん研究会
組織横断的がん診療を担う専門医療人の養成	清水 雅仁	第一内科	6,111,000	補委	文部科学省
急性期脳出血への降圧を検討する第Ⅲ相国際多施設共同無作為化臨床試験	岩間 亨	脳神経外科	2,177,535	補委	公益財団法人循環器病研究振興財団
難治性リンパ管異常に対するシロリムス療法確立のための研究	小関 道夫	小児科	48,000,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
脳動脈瘤塞栓術におけるHydrogel coilの塞栓効果に関する多施設共同無作為化比較試験 (HYBRID study)	榎本 由貴子	脳神経外科	693,000	補委	公益財団法人先端医療振興財団
再発危険因子を有するStage II大腸癌に対するUFT/LV療法の臨床的有用性に関する研究 (JFMC46-1201)	吉田 和弘	第二外科	345,600	補委	公益財団法人がん集学的治療研究財団
病理学的Stage II/Ⅲで“vulnerable”な80歳以上の高齢者胃癌に対する開始量を減量したS-1術後補助化学療法に関するランダム化比較第Ⅲ相試験	吉田 和弘	第二外科	12,000,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

計 8
合計79

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Noda Y, Kanematsu M, Goshima S, et al.	第3内科	Diffusion Kurtosis Imaging of the Pancreas for the Assessment of HbA1c levels.	Journal of Magnetic Resonance Imaging. 2016; 43(1): 159-165	Original Article
2	Hashimoto K, Horikawa Y, Takeda J.	第3内科	Complementary glucagonostatic and insulinotropic effects of DPP-4 inhibitors in the glucose- lowering action of Japanese patients with type 2 diabetes.	Diabetology International. 2016; 7(2): 133-140.	Original Article
3	Noda Y, Goshima S, Tanaka K, et al.	第3内科	Findings in pancreatic MRI associated with pancreatic fibrosis and HbA1c values.	Journal of Magnetic Resonance Imaging. 2016; 43(3): 680-687.	Original Article
4	Iizuka K, Fujisawa T, Takeda J.	第3内科	Concurrent insulinoma and impaired glucose tolerance suspected as owing to obesity.	BMJ Case Reports. 2016; 0213793.	Original Article
5	Iizuka K, Niwa H, Kato T, et al.	第3内科	Dasatinib improves insulin sensitivity and affects lipid metabolism in a patient with chronic myeloid leukaemia.	BMJ Case Reports. 2016; 0214284.	Original Article
6	Iizuka K, Kato T, Mizuno M, et al.	第3内科	A discrepancy between plasma glycated albumin and HbA1c levels in a patient with steroid- induced diabetes mellitus.	BMJ Case Reports. 2016; 0214788.	Original Article
7	Kato T, Iizuka K, Niwa H, et al.	第3内科	Liraglutide improved glycaemic instability in a patient with diabetes with insulin antibodies.	BMJ Case Reports. 2016; 0216028.	Original Article
8	Otsuka H, Ozeki M, Kanda K, et al.	小児科	Complete bone regeneration in hemophilic pseudotumor of the mandible.	Pediatr Int. 2016; 58: 406-408.	Original Article
9	Nozawa A, Ozeki M, Kuze B, et al.	小児科	Gorham-Stout Disease of the Skull Base With Hearing Loss: Dramatic Recovery and Antiangiogenic Therapy.	Pediatr Blood Cancer. 2016; 63: 931-934.	Original Article
10	Ozeki M, Fujino A, Matsuoka K, et al.	小児科	Clinical Features and Prognosis of Generalized Lymphatic Anomaly, Kaposiform Lymphangiomas, and Gorham-Stout Disease.	Pediatr Blood Cancer. 2016; 63: 832-838.	Original Article
11	Ozeki M, Hori T, Kanda K, et al.	小児科	Everolimus for primary intestinal lymphangiectasia with protein- losing enteropathy.	Pediatrics. 2016; 137: e20152562.	Original Article

計11件

12	Kato H, Matsuo M, Ozeki M, et al.	小児科	Rebound adenoid hyperplasia after chemotherapy in pediatric patients with head and neck lymphoma: MR imaging findings.	Jpn J Radiol. 2016; 34: 633-639.	Original Article
13	Ozeki M, Nozawa A, Hori T, et al.	小児科	Propranolol for infantile hemangioma: Effect on plasma vascular endothelial growth factor.	Pediatr Int. 2016; 58: 1130-1135.	Original Article
14	Matsumoto H, Ozeki M, Hori T, et al.	小児科	Successful Everolimus Treatment of Kaposiform Hemangioendothelioma with Kasabach-Merritt Phenomenon: Clinical Efficacy and Adverse	J Pediatr Hemato Oncol. 2016; 38: e322-e325.	Original Article
15	Ohnishi H, Kawamoto N, Kaneko H, et al.	小児科	A case of selective IgG subclass deficiency with STAT3 mutation.	Allergol Int. 2016; 65: 495-497.	Letter
16	Yamamoto T, Endo W, Ohnishi H, et al.	小児科	The first report of Japanese patients with asparagine synthetase deficiency.	Brain Dev. 2016; 39: 236-242.	Original Article
17	Otsuka H, Sasai H, Nakama M, et al.	小児科	Exon 10 skipping in ACAT1 caused by a novel mutation (c.949G>A) located at an exonic splice enhancer site,	Molecular Medicine Reports. 2016; 14: 4906-4910.	Original Article
18	Otsuka H, Sasai H, Abdelkreem E, et al.	小児科	Effectiveness of Medium-Chain Triglyceride Oil Therapy in Two Japanese Citrin-Deficient Siblings: Evaluation Using Oral Glucose Tolerance Tests.	Tohoku J Exp Med. 2016; 240: 323-328.	Original Article
19	Kubota K, Kinomura Y, Yamamoto T, et al.	小児科	ACTH therapy for West syndrome with severe hemophilia A.	Epilepsy Behav Case Rep. 2016; 6: 1-2.	Original Article
20	Shirakami Y, Sakai H, Kochi T, et al.	検査部	Catechins and its role in chronic diseases. Chapter:Drug Discovery from mother nature.	Advances in Experimental Medicine and Biology. Springer, 2016929: 67-90.	Others
21	Shibata Y, Hara T, Nagano J, et al.	検査部	The role of indoleamine 2,3-dioxygenase in diethylnitrosamine-induced liver carcinogenesis.	PLoS One. 2016 Jan 4; 11(1): e0146279.	Original Article
22	Niwa T, Watanabe T, Suzuki K, et al.	検査部	Early optimization of antimicrobial therapy improves clinical outcomes of patients administered agents targeting methicillin-resistant	J Clin Pharm Ther. 2016. 41(1): 19-25,	Original Article
23	Shirakami Y, Shimizu M, Kubota M, et al.	検査部	Pentoxifylline prevents nonalcoholic steatohepatitis-related liver pre-neoplasms by inhibiting hepatic inflammation and lipogenesis.	Eur J Cancer Prev. 2016. 25(3): 206-215,	Original Article
24	Niwa T, Watanabe T, Goto T, et al.	検査部	Daily review of antimicrobial use facilitates the early optimization of antimicrobial therapy and clinical outcomes of patients with bloodstream infection.	Biol Pharm Bull. 2016. 39(5): 721-727,	Original Article
25	Adachi Y, Moriya C, Fujisawa T, et al.	検査部	Recurrent superficial cellulitis-like erythema associated with Helicobacter cinaedi bacteremia	J Dermatol. 2016. 43(7): 844-846,	Letter

計14件

26	Hara T, Matsumoto T, Shibata Y, et al.	検査部	Prognostic value of the combination of serum l-kynurenine level and indoleamine 2,3-dioxygenase mRNA expression in acute myeloid	Leuk Lymphoma. 2016. 57(9): 2208-2211,	Letter
27	Ogiso H, Ito H, Ando T, et al.	検査部	The deficiency of indoleamine 2,3-dioxygenase aggravates the CCl4-induced liver fibrosis in mice.	PLoS One. 2016 Sep 6; 11(9): e0162183.	Original Article
28	Miyazaki T, Shirakami Y, Kubota M, et al.	検査部	Sodium alginate prevents progression of non-alcoholic steatohepatitis and liver carcinogenesis in obese and diabetic mice.	Oncotarget. 2016. 7(9): 10448-10458,	Original Article
29	Oie S, Mochizuki K, Ishida K, et al.	検査部	Case of late-onset bleb associated endophthalmitis caused by Rothia mucilaginosa	J Infect Chemother. 2016. 22(9): 645-647,	Original Article
30	Ando T, Ito H, Ohtaki H, et al.	検査部	Role of invariant NK1 cells in lipopolysaccharide-induced lethal shock during encephalomyocarditis virus infection.	Immunobiology. 2016 Sep 19. 0S0171-2985(16)30366-7.	Original Article
31	Kawasaki M, Tanaka R, Miyake T, et al.	第2内科	Estimated pulmonary capillary wedge pressure assessed by speckle tracking echocardiography predicts successful ablation in paroxysmal	Cardiovasc Ultrasound. 2016; 14: 6.	Original Article
32	Ito F, Kawasaki M, Ohno Y, et al.	第2内科	Noninvasive Tissue Characterization of Lung Tumors Using Integrated Backscatter Intravascular Ultrasound: An Ex Vivo Comparative Study With	Chest. 2016; 149: 1276-1284.	Original Article
33	Takasugi N, Goto H, Takasugi M, et al.	第2内科	Prevalence of Microvolt T-Wave Alternans in Patients With Long QT Syndrome and Its Association With Torsade de Pointes.	Circ Arrhythm Electrophysiol. 2016; 9: e003206.	Original Article
34	Takahashi S, Kawasaki M, Miyata S, et al.	第2内科	Feasibility of tissue characterization of coronary plaques using 320-detector row computed tomography: comparison with integrated	Heart Vessels. 2016; 31: 29-37.	Original Article
35	Kawasaki M, Tanaka R, Ono K, et al.	第2内科	Impact of gender and healthy aging on pulmonary capillary wedge pressure estimated by the kinetics-tracking index using two-dimensional speckle tracking	Hypertens Res. 2016; 39: 327-333.	Original Article
36	Kamiya F, Ohn Y, Funaguchi N, et al.	第2内科	3-D computed tomographic airway analysis detects mild bronchiectasis in mycobacterium avium complex pulmonary disease.	Int J Clin Exp Med. 2016; 9: 5978-5986.	Original Article
37	Matsumoto-Miyazaki J, Miyazaki N, Murata I, et al.	第2内科	Traditional Thermal Therapy with Indirect Moxibustion Decreases Renal Arterial Resistive Index in Patients with Chronic Kidney Disease.	J Altern Complement Med. 2016; 22: 306-314.	Original Article
38	Yokoyama C, Aoyama T, Ido T, et al.	第2内科	Deletion of LOX-1 Protects against Heart Failure Induced by Doxorubicin.	PLoS One. 2016; 11: e0154994.	Original Article
39	Ito F, Ohno Y, Toyoshi S, et al.	第2内科	Pharmacokinetics of consecutive oral moxifloxacin (400 mg/day) in patients with respiratory tract infection.	Ther Adv Respir Dis. 2016; 10: 34-42.	Original Article

計14件

40	Kawasaki M.	第2内科	Tissue characterization of coronary plaques as a key to relationship between serum uric acid level and cardiovascular disease: a direct risk or an	J Atherosclero Thrombo 2016; 23: 605-607.	Original Article
41	Iwata H.	第1外科	Therapeutic strategy for small-sized lung cancer.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2016; 64: 450-456.	Review
42	Iwata H.	第1外科	Adenocarcinoma containing lepidic growth.	J Thorac Dis. 2016; 8: e1050-e1052.	Others
43	Mizuno Y, Iwata H, Yamamoto H, et al.	第1外科	Influence of smoking on perioperative oxidative stress after pulmonary resection.	Surg Today. 2016; 46: 183-187.	Original Article
44	Ishida N, Shimabukuro K, Ogura H, et al.	第1外科	Coronary Artery Bypass Grafting for an Anomalous Left Coronary Artery from the Pulmonary Artery in a 73-Year-Old Female.	J Card Surg. 2016; 31: 380-382.	Original Article
45	Kawashima K, Terabayashi N, Miyagawa T, et al.	整形外科	Stress Fractures of the First Rib Related to Swinging of a Baseball Bat: Two Case Reports.	Clin J Sport Med. 2016 Nov; 26(6): 108-110.	Original Article
46	Kanoh H, Banno Y, Nakamura M, et al.	皮膚科	Contact allergy to liquorice flavonoids: Analysis using liquid chromatography-mass spectrometry.	Contact Dermatitis. 2016; 74: 191-192.	Others
47	Matsuno H, Watanabe T, Tada S, et al.	皮膚科	Sonographic detection of subcutaneous foreign bodies in 3 cases.	Acta Dermatovenereol Croat. 2016; 24: 299-302.	Original Article
48	Mizutani Y, Ito M, Fujisawa T, et al.	皮膚科	Acquired palmoplantar keratoderma associated with hypothyroidism.	J Dermatol 2016; 43: 1246-1247.	Letter
49	Takahashi T, Hata M, Iwata H, et al.	皮膚科	Cutaneous B cell pseudolymphoma in a psoriatic patient treated with cyclosporine.	Acta Derm Venereol. 2016; 96: 824-825.	Original Article
50	Takahashi T, Mizutani Y, Ito M, et al.	皮膚科	Dystrophic epidermolysis bullosa pruriginosa successfully treated with immunosuppressants.	J Dermatol. 2016; 43: 1391-1392.	Letter
51	Yasuda M, Muratani T, Ishikawa K, et al.	泌尿器科	Japanese guideline for clinical research of antimicrobial agents on urogenital infections: second edition.	J Infect Chemother. 2016; 22: 651-661.	Original Article
52	Deguchi T, Kikuchi M, Yasuda M, et al.	泌尿器科	Multidrug-Resistant Mycoplasma genitalium Is Increasing.	Clin Infect Dis. 2016; 62: 405-406.	Original Article
53	Deguchi T, Yasuda M, Hatazaki K, et al.	泌尿器科	New Clinical Strain of Neisseria gonorrhoeae with Decreased Susceptibility to Ceftriaxone, Japan.	Emerg Infect Dis. 2016; 22: 142-144.	Letter

計14件

54	Kikuchi M, Kameyama K, Yasuda M, et al.	泌尿器科	Postoperative infectious complications in patients undergoing holmium laser enucleation of the prostate: Risk factors and microbiological	Int J Urol. 2016; 23: 791-796.	Original Article
55	Yasuda M, Ito S, Hatazaki K, et al.	泌尿器科	Remarkable increase of Neisseria gonorrhoeae with decreased susceptibility of azithromycin and increase in the failure of azithromycin therapy in male	J Infect Chemother. 2016; 22: 841-843.	Original Article
56	Sakata K, Fukuoka N, Tanabe K, et al.	麻酔科疼痛治療科	Anaphylactic shock due to intravesical administration of pirarubicin hydrochloride for the fifth time.	J Clinical Anesth. 2016; 28: 2-3.	Original Article
57	Yamada Y, Yamamoto T, Tanabe K, et al.	麻酔科疼痛治療科	A case of anaphylaxis apparently induced by sugammadex and rocuronium in successive surgeries.	J Clinical Anesth. 2016; 32: 30-32.	Original Article
58	Hayashi Y, Yoshikura N, Takekoshi A, et al.	神経内科・老年内科	Preserved regional cerebral blood flow in the occipital cortices, brainstem, and cerebellum of patients with V180I-129M genetic	J Neurol Sci. 2016; 370: 145-151.	Original Article
59	Hayashi Y, Iwasaki Y, Takekoshi A, et al.	神経内科・老年内科	An autopsy-verified case of FTLD-TDP type A with upper motor neuron-predominant motor neuron disease mimicking MM2-thalamic-type sporadic	Prion. 2016; 10: 492-501.	Original Article
60	Nakagawa T, Itoh M, Ohta K, et al.	神経内科・老年内科	Improvement of memory recall by quercetin in rodent contextual fear conditioning and human early-stage Alzheimer's disease patients	NeuroReport. 2016; 27: 671-676.	Original Article
61	Enomoto Y, Yoshimura S, Egashira Y, et al.	脳神経外科	The risk of intracranial hemorrhage in Japanese patients with acute large vessel occlusion; subanalysis of the RESCUE-Japan registry.	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2016; 25: 1076-1080.	Original Article
62	Suzuki A, Kobayashi R, Shakui T, et al.	耳鼻咽喉科	Effect of polaprezinc on oral mucositis, irradiation period, and time to discharge in patients with head and neck cancer.	Head Neck. 2016; 38: 1387-1392.	Original Article
63	Takahashi N, Sawada A, Mochizuki K, et al.	眼科	Fluctuation of bacteria on bleb surface after trabeculectomy with adjunctive mitomycin C.	J Glaucoma 2016; 25: 433-439,	Original Article
64	Sagara H, Yamamoto T, Sekiryu T, et al.	眼科	Seasonal variation in bleb-related infection in Japan: the Japan Glaucoma Society Survey of Bleb-related Infection Report 3.	J Glaucoma 2016; 25(1): 8-13,	Others
65	Inuzuka H, Kawase K, Sawada A, et al.	眼科	Development of glaucomatous visual field defects in preperimetric glaucoma patients within 3 years of diagnosis.	J Glaucoma 2016; 25(6): e591-e595,	Original Article
66	Hiroki Tanaka, Kyoko Ishida, Wataru Yamada, et al.	眼科	Study of ocular candidiasis during nine-year.	J Infect Chemother 2016; Mar; 22(3): 149-156	Original Article
67	Murata K, Yamada W, Nishida T, et al.	眼科	Sequential Optical Coherence Tomography Images of Early Macular Necrosis Caused by Acute Retinal Necrosis in Non-Human Immunodeficiency Virus	Retina. 2016 Jul; 36(7): e55-e57.	Others

68	Yoshida K, Yamaguchi K, Okumura N, et al.	第2外科	Is conversion therapy possible in stage IV gastric cancer: the proposal of new biological categories of classification.	Gastric Cancer. 2016; 19(2): 329-338.	Original Article
69	Iihara H, Fujii H, Yoshimi C, et al.	第2外科	Control of chemotherapy-induced nausea in patients receiving outpatient cancer chemotherapy. Int.	J Clin Oncol. 2016; 21: 409-418.	Original Article
70	Taniguchi K, Sakai M, Sugito S, et al.	第2外科	PTBP1-associated microRNA-1 and -133b suppress the Warburg effect in colorectal tumors.	Oncotarget. 2016; 7(14): 18940-18952.	Original Article
71	Taniguchi K, Sakai M, Sugito N, et al.	第2外科	PKM1 is involved in resistance to anti-cancer drugs.	Biochemical and Biophysical Research Communications. 2016; 473: 174-180.	Original Article
72	Fujii H, Iihara H, Suzuki A, et al.	第2外科	Hypomagnesemia is a reliable predictor for efficacy of anti-EGFR monoclonal antibody used in combination with first-line chemotherapy for metastatic	Cancer Chemother Pharmacol. 2016; 77(6): 1209-1215.	Original Article
73	Iihara H, Ishihara M, Fujii H, et al.	第2外科	Comparison of the Control of Nausea and Vomiting among Several Moderately Emetic-Risk Chemotherapy Regimens.	Journal of Cancer. 2016; 7(5): 569-575.	Original Article
74	Yamaguchi K, Yoshida K, Tanaka Y, et al.	第2外科	Conversion therapy for stage IV gastric cancer -the present and future.	Translational Gastroenterology and Hepatology. 2016; 1: 50.	Others
75	Takahashi T, Emi Y, Oki E, et al.	第2外科	Multicenter phase II study of combination therapy with cetuximab and S-1 in patients with KRAS exon 2 wild-type unresectable colorectal cancer	Cancer Chemother Pharmacol. 2016; 78: 585-593.	Original Article
76	Tanaka Y, Takahashi T, Yamaguchi K, et al.	第2外科	Elemental diet plus glutamine for the prevention of mucositis in esophageal cancer patients receiving chemotherapy: a feasibility study.	Support Care Cancer. 2016; 24: 933-941.	Original Article
77	Tanaka Y, Yoshida K, Tanahashi T, et al.	第2外科	Phase II trial of neoadjuvant chemotherapy with docetaxel, nedaplatin, and S1 for advanced esophageal squamous cell carcinoma.	Cancer Science. 2016; 107(6): 764-772.	Original Article
78	Tanaka Y, Yoshida K, Atsuko Yamada, et al.	第2外科	Phase II trial of biweekly docetaxel, cisplatin, and 5-fluorouracil chemotherapy for advanced esophageal squamous cell carcinoma.	Cancer Chemotherapy and Pharmacology. 2016; 77(6): 1143-1152.	Original Article
79	Yawata K, Osada S, Tanahashi T, et al.	第2外科	The Significant Role of Cyclin D1 in the Synergistic Growth-inhibitory Effect of Combined Therapy of Vandetanib with 5-Fluorouracil for Gastric Cancer.	Anticancer Research. 2016; 36: 5215-5226.	Original Article
80	Sugiyama T, Taniguchi K, Matsuhashi N, et al.	第2外科	MiR-133b inhibits growth of human gastric cancer cells by silencing PKM-splicer PTBP1.	Cancer Science. 2016; 107(12): 1767-1775.	Original Article
81	Suzuki A, Kobayashi R, Fujii H, et al.	第2外科	Control of Nausea and Vomiting in Patients with Colorectal Cancer Receiving Chemotherapy with Moderate Emetic Risk.	Anticancer Research, 2016; 36: 6527-6534.	Original Article

計14件

82	Sakai H, Shirakami Y, Shimizu M.	第1内科	Chemoprevention of obesity-related liver carcinogenesis by using pharmaceutical and nutraceutical agents.	World J Gastroenterol. 2016; 22: 394-406.	Review
83	Yamada T, Nannya Y, Mita N, et al.	第1内科	Multiple myeloma with Russell bodies and needle-shaped crystalline inclusions.	Int J Hematol 2016; 103: 483-485.	Letter
84	Suetsugu A, Matsumoto T, Hasegawa K, et al.	第1内科	Color-coded live imaging of heterokaryon formation and nuclear fusion of hybridizing cancer cells.	Anticancer Res 2016; 36: 3827-3831.	Original Article
85	Iwashita T, Yasuda I, Mukai T, et al.	第1内科	EUS-guided rendezvous for difficult biliary cannulation using a standardized algorithm: a multicenter prospective pilot study (with videos).	Gastrointest Endosc 2016; 83: 394-400.	Original Article
86	Iwashita T, Nakai Y, Hara K, et al.	第1内科	Endoscopic ultrasound-guided antegrade treatment of bile duct stone in patients with surgically altered anatomy: a multicenter retrospective cohort study.	J Hepatobiliary Pancreat Sci 2016; 23: 227-233.	Original Article
87	Ohno T, Shimizu M, Shirakami Y, et al.	第1内科	Preventive effects of astaxanthin on diethylnitrosamine-induced liver tumorigenesis in C57/BL/KsJ-db/db obese mice	Hepatol Res 2016; 46: E201-E209.	Original Article
88	Hanai T, Shiraki M, Ohnishi S, et al.	第1内科	Rapid skeletal muscle wasting predicts worse survival in patients with liver cirrhosis.	Hepatol Res 2016; 46: 743-751.	Original Article
89	Matsumoto T, Suetsugu A, Hasegawa K, et al.	第1内科	Color-coded imaging of syngeneic orthotopic malignant lymphoma interacting with host stromal cells during metastasis.	Anticancer Res 2016; 36: 1473-1478.	Original Article
90	Matsumoto T, Suetsugu A, Hasegawa K, et al.	第1内科	A mouse model of fluorescent protein-expressing disseminated peritoneal lymphoma for fluorescence-guided surgery.	Anticancer Res 2016; 36: 4483-4487.	Original Article
91	Hasegawa K, Suetsugu A, Nakamura M, et al.	第1内科	Imaging nuclear-cytoplasmic dynamics in primary and metastatic colon cancer in nude mice.	Anticancer Res 2016; 36: 2113-2117.	Original Article
92	Hasegawa K, Suetsugu A, Nakamura M, et al.	第1内科	Color-coded imaging enables fluorescence-guided surgery to resect the tumor along with the tumor microenvironment in a syngeneic mouse model of EL-4	Anticancer Res 2016; 36: 4443-4448.	Original Article
93	Okuno M, Iwashita T, Yoshida K, et al.	第1内科	Significance of Endoscopic Sphincterotomy Preceding Endoscopic Papillary Large Balloon Dilation in the Management of Bile Duct Stones	Dig Dis Sci 2016; 61: 597-602.	Original Article
94	Ibuka H, Ishihara M, Suzuki A, et al.	第1内科	Antacid attenuates the laxative action of magnesium in cancer patients receiving opioid analgesic.	J Pharm Pharmacol 2016; 68: 1214-1221.	Original Article
95	Hayashi H, Kobayashi R, Suzuki A, et al.	第1内科	Preparation and clinical evaluation of a novel lozenge containing polaprezinc, a zinc-L-carnosine, for prevention of oral mucositis in patients with	Med Oncol 2016; 33: 91.	Original Article

96	Furui T, Takenaka M, Makino H, et al.	産科婦人科	An evaluation of the Gifu Model in a trial for a new regional oncofertility network in Japan, focusing on its necessity and effects.	Reprod Med Biol. 2016; 15: 107-113.	Original Article
97	Kato H, Hatano Y, Makino H, et al.	産科婦人科	Clear cell carcinoma of the ovary: comparison of MR findings of histological subtypes	Abdom Radiol. 2016; 41: 2476-2483.	Original Article
98	Kato H, Kanematsu M, Watanabe H, et al.	放射線科	MR imaging findings of pilomatricomas: a radiological-pathological correlation.	Acta Radiol. 2016; 57: 726-732.	Original Article
99	Makino H, Kato H, Furui T, et al.	放射線科	Assessment of uterine enhancement rate after abdominal radical trachelectomy using dynamic contrast-enhanced magnetic resonance	Arch Gynecol Obstet. 2016; 293: 625-632.	Original Article
100	Hachiya K, Kato H, Kawaguchi M, et al.	放射線科	Red degeneration of a uterine fibroid following the administration of gonadotropin releasing hormone agonists.	J Obstet Gynaecol. 2016; 36: 1018-1019.	Original Article
101	Goshima S, Kanematsu M, Noda Y, et al.	放射線科	Minimally required iodine dose for the detection of hypervascular hepatocellular carcinoma on 80-kVp CT.	AJR American journal of roentgenology. 2016; 206(3): 518-525.	Original Article
102	Tanaka H, Kajiyama Y, Kitahara M, et al.	放射線科	Usefulness of the dual energy field-in-field technique in breast tangential radiotherapy.	Radiol Med. 2016; 121(4): 323-326.	Original Article
103	Noda Y, Goshima S, Miyoshi T, et al.	放射線科	Determination of the least amount of iodine load required for the detection of pancreatic adenocarcinoma at 80-kVp CT.	Eur J Radiol. 2016; 85(5): 901-905.	Original Article
104	Noda Y, Goshima S, Kajita K, et al.	放射線科	Biliary tract enhancement in gadoteric acid-enhanced MRI correlates with liver function biomarkers.	Eur J Radiol. 2016; 85(11): 2001-2007.	Original Article
105	Noda Y, Goshima S, Kanematsu M, et al.	放射線科	F-18 FDC uptake on positron emission tomography as a predictor for lymphovascular invasion in patients with lung adenocarcinoma.	Ann Nucl Med. 2016; 30(1): 11-17.	Original Article
106	Kobayashi R, Suzuki A, Matsuura K, et al.	薬剤部	Risk analysis for cisplatin-induced nephrotoxicity during first cycle of chemotherapy.	Int J Clin Exp Med. 2016; 9: 3635-3641.	Original Article
107	Takahashi T, Terada T, Arikawa H, et al.	薬剤部	Quantitation of oxidative modifications of commercial human albumins for clinical use: thiol oxidation and carbonylation.	Biol Pharmac Bull. 2016; 39: 401-408.	Original Article
108	Yasuda H, Ohashi A, Kamiya T, et al.	薬剤部	Exendin-4 induces extracellular-superoxide dismutase through histone H3 acetylation	J Clin Biochem Nutr 2016; 59: 174-181.	Original Article
109	Ohno Y, Kato Y, Kobayashi R, et al.	薬剤部	Cost-effective use of aprepitant in multiple-day chemotherapy regimens.	Int J Clin Exp Med 2016; 9: 19280-90.	Original Article

計14件

110	Harada S, Suzuki A, Nishida S, et al.	薬剤部	Reduction of medication errors related to sliding scale insulin by introduction of a standardized order sheet.	J Eval Clin Pract 2016; 00	Original Article
111	Yoshida S, Suzuki A, Ohmori T, et al.	薬剤部	A simplified chart for determining the initial loading dose of teicoplanin in critically ill patients.	Die Pharmazie2016, 00	Original Article
112	Tanaka Y, Kato H, Shirai K, et al.	高次救命治療センター	Sternoclavicular joint septic arthritis with chest wall abscess in a healthy adult: .	J Med . 2016 Mar 26; 10(1):69	Original Article
113	Suzuki K, Inoue S, Morita S, et al.	高次救命治療センター	Comparative Effectiveness of Emergency Resuscitative Thoracotomy versus Closed Chest Compressions among Patients with Critical Blunt	PLoS One. 2016 ; 11(1): 1-12	Original Article
114	Suzuki K, Inoue S, Kametani Y, et al.	高次救命治療センター	Reduced Immunocompetent B Cells and Increased Secondary Infection in Elderly Patients With Severe Sepsis.	Shock. 2016 Sep; 46(3): 270-278.	Original Article
115	Kumada K, Murakami N, Okada H, et al.	高次救命治療センター	Rare central venous catheter malposition – an ultrasound-guided approach would be helpful:	J Med . 2016 Sep 13; 10(1): 248-251.	Original Article
116	Ogawa H, Matsumoto K, Ogawa T, et al.	整形外科	Effect of Wedge Insertion Angle on Posterior Tibial Slope in Medial Opening Wedge High Tibial Osteotomy.	Orthop J Sports Med.2016 Feb 25;4(2)	Original Article
117	Ogawa H, Matsumoto K, Akiyama H.	整形外科	Effect of Patellar Resurfacing on Patellofemoral Crepitus in Posterior-Stabilized Total Knee Arthroplasty.	J Arthroplasty.2016 Jan 21.	Original Article
118	Ogawa H, Matsumoto K, Ito Y, Kawashima K, et al.	整形外科	Indirect Popliteal Artery Transections in Revision Total Knee Arthroplasty A Case Report.	Bull Hosp Jt Dis (2013).2016;74(2):168-71.	Original Article
119	Ogawa H, Matsumoto K, Terabayashi N,et al.	整形外科	Association of lubricin concentration in synovial fluid and clinical status of osteoarthritic knee.	Mod Rheumatol.2016 Jul 20:1-4.	Original Article
120	Ogawa H, Matsumoto K, Ogawa T, et al.	整形外科	Preoperative varus laxity correlates with overcorrection in medial opening wedge high tibial osteotomy.	Arch Orthop Trauma Surg.2016 Jul 21.	Original Article
121	Tanaka Y., Yoshida K., Yamada A., et al.	病理部	Erratum to: Phase II trial of biweekly docetaxel, cisplatin, and 5-fluorouracil chemotherapy for advanced esophageal squamous cell carcinoma.	Cancer Chemother Pharmacol.2016;77(6):115 3-1155.	Others

計12件
合計121
件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 手順書の主な内容 委員会提出書類、予備審査、研究計画の判定、内容変更等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 規定の主な内容 委員組織、所掌業務、会議、報告等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 2 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 2 2 回
・ 研修の主な内容 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」について、研究計画書の記入方法について	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

岐阜大学医学部附属病院は、先進医療を提供し、地域医療の中核を担う能力を備えた医師を育成するため、2年間の初期研修を修了した医師を対象に、その分野での卓越した専門医の育成を行っている。

○優れた指導医によるきめ細かい指導体制
優れた知識と経験をもつ多数の指導医の下で質の高い研修を実施。
メジャーな診療科だけでなく大学病院ならではのマイナー科と呼ばれる診療科にも多数の指導医を配置。

○豊富な知識・経験を持つ専門医を育成
大学病院や関連病院で豊富な臨床経験を積み基礎的な力を養いながら専門医を取得でき、また、大学院へ進むことも可能で、希望者は基礎研究、臨床研究を行い、医学博士の取得を目指すことも可能。

○診療科の垣根を越えたローテーション
希望に応じて異なる診療科において臨床研修が可能であり、複数の専門医を取得することも可能。

○豊富な機材を利用したシミュレーション教育
岐阜大学医学部附属病院が所有している内視鏡手術トレーニングセンターのシミュレーターを利用したトレーニングを実施。

○研修例

- 1年目 岐阜大学病院
- 2～3年目 連携施設
- 4年目以降 専門医取得→各種領域専門医申請

2 研修の実績

研修医の人数	111人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
白木 亮	内科・消化器内科	医局長	21年	
西垣 和彦	内科・循環器内科	医局長	31年	
諏訪 哲也	内科	医局長	23年	
下畑 享良	内科	診療科長	26年	
池田 高英	内科	病棟医長	15年	
岩田 尚	外科・心臓血管外科	副科長	28年	
山口 和也	外科・消化器外科	医局長	29年	
早崎 容	産婦人科	外来医長	21年	
松本 和	整形外科	医局長	23年	
岩間 亨	脳神経外科	診療科長	33年	
澤田 明	眼科	医局長	25年	
水田 啓介	耳鼻咽喉科	診療科長	34年	
清島 真理子	皮膚科	医局長	37年	
安田 満	泌尿器科	医局長	23年	
深尾 琢	精神科	医局長	25年	
深尾 敏幸	小児科	診療科長	31年	
富松 英人	放射線科	医局長	19年	
熊澤 昌彦	麻酔科	講師	19年	

牧田 浩樹	歯科	医局長	25年
吉田 隆浩	救急科	医局長	23年
			年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

1. 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

- ① 検査部セミナー（症例検討、研修会参加報告など）
- ② 岐阜大学超音波フォーラム（講演）
- ③ 診療用高エネルギー放射線発生装置（直線加速器等）、診療用放射線照射装置に係る定期研修会
- ④ 感染管理認定コース研修：看護部認定感染管理者育成研修
- ⑤ 感染管理フォローアップ研修：看護部認定感染管理コース修了者対象フォローアップ研修
- ⑥ 褥瘡ケアフォローアップ研修：看護部認定褥瘡ケアコース修了者対象フォローアップ研修
- ⑦ がん看護 E L N E C - J 研修：所属部署でがん看護に関する役割モデルとなる看護師の育成
- ⑧ フィジカルアセスメント研修：フィジカルアセスメントの知識と技術を習得する
- ⑨ 装置更新にともなう新規医療機器安全研修会 磁気共鳴画像診断装置
- ⑩ 装置更新にともなう新規医療機器安全研修会 診断用エックス線装置（第4透視室）

・研修の期間・実施回数

- ① 検査部セミナー 1～2回／月
- ② 岐阜大学超音波フォーラム 2回／年
- ③ 2回／年
- ④ 感染管理認定コース研修：平成29年1月～2月、全4回×1.5時間
- ⑤ 感染管理フォローアップ研修：平成29年2月開催、1時間
- ⑥ 褥瘡ケアフォローアップ研修：平成29年2月開催、1時間

- ⑦ がん看護ELNEC-J研修：平成28年5月～平成29年3月 全10回×1.5時間
- ⑧ フィジカルアセスメント研修：平成28年9月～平成29年1月、全5回×1.5時間
- ⑨ 更新装置使用開始前に1回（平成28年4月20日）
- ⑩ 更新装置使用開始前に1回（平成28年10月19, 21, 24, 25, 26日）

・研修の参加人数

- ①検査部セミナー 20～30名
- ②岐阜大学超音波フォーラム 30名程度
- ③第1回（平成28年5月20, 23, 27日）17名、第2回（平成28年12月12日）15名
- ④感染管理認定コース研修：1名
- ⑤感染管理フォローアップ研修：16人
- ⑥褥瘡ケアフォローアップ研修：30人
- ⑦ がん看護ELNEC-J研修：5名
- ⑧ フィジカルアセスメント研修：5名
- ⑨ 30名
- ⑩ 41名

2. 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

- ①リーダーの在り方と問題解決：リーダーシップ、コーチング、問題解決技法、自部署の業務改善実践と報告。
- ②リーダーナースとしての業務管理：組織における自分たちの位置づけと役割を理解し、業務を遂行する上でリーダーナースとしての物品管理について必要な知識を習得する。
- ③災害看護：大規模災害における大学病院や看護師の役割を学び、患者の安全、指示命令系統、情報伝達、治療について理解できる。シミュレーション研修
- ④管理者研修：コーチング

・研修の期間・実施回数

- ① リーダーの在り方と問題解決：平成28年5月～平成29年1月、15.25時間
- ② リーダーナースとしての業務管理：平成28年7月、講義1.5時間
- ③ 災害看護：平成28年7月、講義・演習、6.5時間
- ④管理者研修：平成29年1月、講義・演習、1.5時間×2

・研修の参加人数

- ① リーダーの在り方と問題解決：9名
- ② リーダーナースとしての業務管理：9名
- ③ 災害看護：20名
- ④管理者研修：26名

3. 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則 d 第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
管理責任者氏名	病院長	小倉 真治
管理担当者氏名	事務部長	山口 昇
	総務課長	長谷川 浩一
	経営企画課長	阿部 幸治
	医事課長	太田 恵美子
	医療支援課長	福井 隆
	看護部長	廣瀬 泰子
	生体支援センター長	村上 啓雄
	放射線部長	松尾 政之
	高次救命治療センター長	小倉 真治
	薬剤部長	伊藤 善規

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	医事課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	手術部
		看護記録	看護部
		検査所見記録	医事課
		エックス線写真	放射線部
		紹介状	医事課
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究支援係(医学系研究科・医学部事務)
		高度の医療の研修の実績	総務課
		閲覧実績	総務課・医療支援課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医療連携センター
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課・薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室
医療に係る安全管理のための委員会の開催状況		医療安全管理室	
医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況		医療安全管理室	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室

・外来及び入院カルテは電子カルテで運用しています。
・当院で保存している紙カルテは当院及び医学部本館以外への持ち出しは禁止、また、保存期間は、患者の最終受診日から起算して10年間と規定しています。

法律の規定に定められた保存年数を「国立大学法人岐阜大学法人文書ファイル保存要領」に基づき保管している。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	生体支援センター
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療支援課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	生体支援センター
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	生体支援センター
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室 医療支援課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理室 医療支援課
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全管理室 医療支援課
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理室 医療支援課		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	生体支援センター
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	臨床倫理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療録管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	先端医療・臨床研究推進センター
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理室
		職員研修の実施状況	総務課
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	事務部長 山口 昇	
閲覧担当者氏名	医事課長 太田 恵美子	
閲覧の求めに応じる場所	医事課・医療支援課事務室内 カルテ閲覧室	
閲覧の手続の概要 閲覧しようとする者は、閲覧申込書を原則として、閲覧を希望する 2 週間前までに提出し、病院長の承認を得る。 病院長は、前項の申込みを適当と認めるときは、閲覧承認書を交付。 閲覧に関しては、閲覧担当者が立ち会う。ただし、閲覧担当者に事故があるとき又は閲覧する諸記録によっては、あらかじめ閲覧責任者が指名する者が立ち会う。 閲覧を承諾された者は、閲覧に立ち会う本学職員の指示に従い、万一従わない場合は、閲覧を中止する。 諸記録の貸出し、複写及び撮影は行わない。		

(注)既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">○医療安全管理に関する基本的な考え方○医療安全のための組織○医療安全管理のための職員研修・教育○インシデント報告等に基づく医療に係る安全確保を目的とした改善方策○医療事故等の発生時の対応○医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針○患者からの相談への対応に関する基本方針○医療安全管理の推進○高難度新規医療技術等を用いた医療の提供	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無 (有・無)</p> <p>・ 開催状況：年 1 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">○医療の安全管理対策の検討及び推進に関すること○医療安全管理のための職員研修に関すること○医療事故及びインシデントに関する情報の収集並びに原因の究明のための調査及び分析に関すること等	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 4 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">○第 1 回医療安全・感染対策合同研修会<ul style="list-style-type: none">医療安全「安全の基本とルール」 ：医療安全管理室 GRM 玉井小百合医療安全「注意すべき薬品の取り扱いについて」 ：薬剤部 麻薬管理主任 小森善文感染対策「感染対策の基本」 ：生体支援センター 感染管理認定看護師 土屋麻由美○第 2 回医療安全・感染対策合同研修会<ul style="list-style-type: none">医療安全「院内連携・コミュニケーション」 ：医療安全管理室 室長 村上啓雄医療安全「輸血製剤の取り扱いについて」 ：輸血部 認定輸血検査技師 帖佐 光洋医療安全「取り扱いに注意が必要なハイリスク薬について」 ：薬剤部 調剤主任 小林亮医療安全「災害時の対応と感染対策」 ：ACCC 小児救急看護認定看護師 白木大輔「脳死・臓器提供～当院の現状&チーム医療～」 ：院内臓器提供連絡調整員(院内コーディネーター) 豊田泉	

- 新採用・中途採用職員研修（研修医・医師・看護師・技師など）（3回）
- 研修医研修（5回）
- 看護部研修（8回）
- 薬剤部講座（1回）
- 新任リスクマネージャー研修（2回）
- 業者向け研修（1回）
- 栄養管理室研修（1回）
- 放射線部講座（1回）

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備（・無）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

- 岐阜大学医学部附属病院DV・高齢者/障害者虐待対応マニュアルの作成
- 医療安全管理規定の一部改正
- 医療安全管理指針の改正
- 医療機器安全管理マニュアルの改訂
- 医療安全マニュアルの一部内容の改訂
- 医薬品の安全使用のための業務手順書の改訂
- 手術関連事項に関する同意書の包括
- インスリンブック改定
 - （①スライディングスケールの数値を明確化②退院時の物品渡し方法の変更）
- 救急カートの見直し→挿管チューブの定数見直し、物流請求システムの変更
- KCL必要部署のみ配置変更（アンプル製剤部署配置廃止）
- ヨード造影CT, MRI検査問診票の改定

（注）前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">○病院感染対策に関する基本的な考え方○病院感染対策の組織○職員教育・研修に関する基本方針○感染症発生状況の報告に関する基本方針○病院感染発生時の対応に関する基本指針○患者への情報提供と説明○病院における院内感染対策の推進	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">○病院感染の発生状況、抗菌薬の使用状況について○病院感染対策の検討および推進に関する事○病院感染対策に係る職員研修の企画に関する事○病院感染対策に係る啓蒙及び広報に関する事○病院感染発生時の医療現場との連絡調整に関する事	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 3 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>1) 生体支援センターセミナー（全職員対象）</p> <ul style="list-style-type: none">○第 1 回 細菌検査結果の見方および検体採取の方法 ： 感染制御認定臨床微生物検査技師 太田 浩敏、中山 麻美○第 2 回 針刺し/切創および皮膚/粘膜曝露 防止対策 ： 感染管理認定看護師 土屋 麻由美○第 3 回 災害時の対応 / ケアについて ： 糖尿病看護認定看護師 古田 均、救急看護認定看護師 辻 俊行、感染管理認定看護師 垣見 克紀○第 4 回 CDIのABC…Z —Clostridium difficile 感染症を知る— ： 公立大学法人名古屋市立大学大学院医学研究科 呼吸器・免疫アレルギー内科学病院教授 中村敦先生○第 5 回 栄養評価と栄養必要量 & 摂食嚥下障害の評価・診断 ： 生体支援センターNST 消化器内科医師 白木 亮、摂食嚥下障害看護認定看護師 古市ふみよ○第 6 回 院内から院外でのチーム医療 ～他職種連携の必要性～ ： 公立陶生病院臨床工学部副技師長 臨床工学士・臨床検査技師 春田 良雄先生○第 7 回 医療関連機器圧迫創傷の予防ケア ： 手術看護認定看護師 吉川 昌弥、新生児集中ケア認定看護師 岡本 知美、皮膚排泄ケア認定看護師 松原 仁美 <p>2) 医療安全・感染対策合同研修会</p> <ul style="list-style-type: none">○第 1 回医療安全・感染対策合同研修会 医療安全「安全の基本とルール」 ： 医療安全管理室 GRM 玉井小百合 医療安全「注意すべき薬品の取り扱いについて」 ： 薬剤部 麻薬管理主任 小森善文 感染対策「感染対策の基本」 ： 生体支援センター 感染管理認定看護師 土屋麻由美	

- 第2回医療安全・感染対策合同研修会
医療安全「院内連携・コミュニケーション」
：医療安全管理室 室長 村上啓雄
- 医療安全「輸血製剤の取り扱いについて」
：輸血部 認定輸血検査技師 帖佐光洋
- 医療安全「取り扱いに注意が必要なハイリスク薬について」
：薬剤部 調剤主任 小林亮
- 感染対策「災害時の対応と感染対策」
：ACCC 小児救急看護認定看護師 白木大輔
- 医療安全「脳死・臓器提供～当院の現状&チーム医療～」
：院内臓器提供連絡調整員(院内コーディネーター) 豊田泉

3) 新入職員研修(全新入職員対象・2回)

- 医療関連感染対策の基本：生体支援センター 村上啓雄
- 生体支援センターについてー感染制御、栄養管理、褥瘡対策、呼吸療法支援、予防接種ー
：生体支援センター 村上啓雄

4) 看護師研修

- 「標準予防策」(新人看護師対象)
- 「感染防止技術」(レベルⅠ研修・初年度看護師対象)
- 「感染防止技術」(レベルⅡ研修・2年目看護師対象)
- 「サーベイランス」(リーダー看護師対象・全4回)
：生体支援センター 土屋麻由美

5) 看護助手研修(2回)

- 業務における感染対策：生体支援センター 土屋麻由美

6) 育児休業からの職場復帰プログラム

- 感染対策の現状：生体支援センター土屋麻由美

7) 中途採用者研修(随時)

- 病院感染対策の基本：生体支援センター村上啓雄

8) 清掃業者研修

- 針刺し/切創から自分を守ろう：生体支援センター 土屋麻由美

9) 医療事務・診療受付係研修

- 感染対策について：生体支援センター 土屋麻由美

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

- 抗菌薬の適正使用のための薬剤師による抗菌薬投与患者の評価および介入
- 手指衛生遵守向上に関する取り組み(速乾性擦式消毒剤の使用量のモニタリング及び直接観察(年2回)等)
- アウトブレイクが疑われた場合は、各部署へ情報提供及び指導の徹底

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る
措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
・ 研修の主な内容： 平成28年4月5日 新入職員研修会 平成28年5月20日 新規採用看護師研修会 平成29年2月1日～2月8日 医療安全・感染対策研修会	
② 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有・無) ・ 業務の主な内容： 業務手順書は電子カルテのオンラインマニュアル内に掲載して、常に業務手順が確認できるようにしており、必要に応じて随時改訂を行っている。また、業務手順書に準拠したチェックリストを作成して、年2回(1月、6月)院内全部署を対象として業務の実施状況を評価している。業務手順書が遵守できていない状況が認められれば、業務の見直し、改善を行うよう指導している。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 各種情報源(PMDA、製薬会社等)より常に最新の医薬品情報を収集し、DIニュースにより医療スタッフ(医師、看護師等)へ情報を発信すると共に、病棟薬剤師が直接情報提供を行っている。院内ホームページ等では各種の医薬品情報を配信するとともに、全ての医療スタッフが最新の添付文書等を閲覧できる環境を整備している。 なお、未承認等の医薬品についての実施状況は、別途記載する。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年52回
・ 研修の主な内容： ○新規購入医療機器（24回） ○保育器（5回） ○人工呼吸器（7回） ○血液浄化機器（1回） ○高エネルギー放射線発生装置（2回） ○人工心肺装置及び補助循環装置（2回） ○除細動装置及び自動体外式除細動器（5回） ○診療用放射線照射装置（2回） ○インフュージョンポンプ（1回） ○経皮的酸素飽和度モニター（1回） ○体外式ペースメーカー（1回） ○PICCカテーテル（1回）	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定（有・無） ・ 保守点検の主な内容： ○人工呼吸器、人工心肺装置、除細動装置、十二誘導心電計、血液浄化装置、輸液ポンプ、シリンジポンプ、超音波ネブライザーは使用毎の保守点検を医療機器センターで実施 ○血液浄化部の多人数用血液透析装置は2年に1度業者による点検実施 ○放射線装置は期限毎に業者と保守点検の契約を結び実施（機器により、半年から2年毎）	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備（有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○人工呼吸器について ：医療機器センター技士による人工呼吸器管理中患者のラウンドを週2回実施 呼吸療法支援チームの活動として、病棟の人工呼吸器管理患者のラウンドを週2回実施 会議では人工呼吸器関連のインシデント報告や情報を検討し院内に周知 ○医療機器の添付文書等の収集、PMDAメディアナビへの登録を実施し情報収集 ○医療機器に関する院内の安全情報をメーカーやMEセンターから医療安全管理室に集めており、必要に応じて、院内全体または該当部署に「安全情報」「医療安全トピックス」の配付などにより周知 ○医療機器の不具合、医療機器に関連した健康被害が発生した際も医療安全管理室に報告	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理の統括責任者として医療安全管理責任者を置き、医療安全を担当する副病院長をもって充て、医療安全管理室長、院内感染対策安全管理責任者、医療機器安全管理責任者及び医薬品安全管理責任者並びに医療安全管理委員会を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（ 2 名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>厚生労働省、PMDA、製薬会社、書籍、インターネット等より、常に最新の医薬品情報を収集している。収集した情報は評価・加工して、DIニュースにより医療スタッフ（医師、看護師等）へ情報を発信すると共に、病棟薬剤師が直接情報提供を行っている（2016年度は54件のDIニュースを発信している）。院内ホームページや電子カルテ医薬品情報システム（JUSDI）では各種の医薬品情報を配信するとともに、全ての医療スタッフが最新の添付文書等を閲覧できる環境を整備している。DIニュースの周知状況の確認として、医療安全・感染対策研修会にて全職員を対象とした確認アンケートを行っており、薬事委員会においても確認調査のためのアンケートを実施している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>1. 未承認薬の使用 院内で使用されている未承認薬としては、院内製剤（クラスI：12品目、クラスII：10品目）および治験薬がある。院内製剤は、倫理審査委員会の審査・承認後に運用を開始している。治験薬は治験審査委員会の審査・承認後に使用している。なお、個人輸入等による未承認薬については、未承認新規医薬品評価委員会を設置しており、2017年1月にHIV感染症の妊婦にレトロビル注射薬の使用と同新生児にレトロビルシロップの使用を承認した。</p> <p>2. 禁忌・適応外薬の使用 禁忌・適応外薬の使用は原則として認めていない。やむを得ず使用する場合は臨床倫理室の審査・承認が必要である。申請方法としては、(1)日常診療の中で科学的根拠があり比較的安全性の高い薬剤は“疾患ごと”に審査・承認しており、(2)治療抵抗性があり生命の危険が伴う場合に延命等の目的で適応外使用する場合（主に抗がん剤や免疫抑制剤）は“症例ごと”に「生命倫理を伴う緊急医療行為実施協議会」にて審査・承認後に使用している。</p> <p>なお、これまでに疾患ごとの適応外使用は67件が審査・承認されており、症例ごとの適応外使用は2016年度は35件が審査・承認されている。事例については治療経過や効果判定も含め薬剤部のデータベースに記録している。</p> <p>・担当者の指名の有無（有・無）</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：薬剤部 ， 職種 副薬剤部長 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤主任 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p>	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無) ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 : 同意書に陪席者のサインを記入している 	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容 : ・ 診療録の保管及び管理に関すること。 ・ 診療録の内容点検及び記載指導に関すること。 ・ 診療録管理室が管理する診療録の閲覧に関すること。 ・ その他診療録の管理に関すること。 	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員 : 専従 (3) 名、専任 (1) 名、兼任 (9) 名 うち医師 : 専従 (1) 名、専任 (1) 名、兼任 (4) 名 うち薬剤師 : 専従 () 名、専任 () 名、兼任 (1) 名 うち看護師 : 専従 (1) 名、専任 () 名、兼任 (2) 名 (注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・ 活動の主な内容 : <p>医療安全管理部門では以下の業務を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。 ○ 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。 ○ 事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。 ○ 医療の安全に係る啓発及び広報に関すること。 ○ 医療の安全確保のため、医療現場との連絡調整に関すること。 ○ 医療の安全確保に係る職員研修の企画立案に関すること。 ○ インシデントに関する情報の収集及び分析、関係資料の作成に関すること。 ○ 医療事故再発防止対策等の立案と周知徹底並びに改善に関すること。 ○ 医療の安全確保のための院内の体制整備に関すること。 ○ 死亡退院事例の検証に関すること。 ○ 医療安全管理委員会に係る事務に関すること。 ○ 医療の安全確保に資する診療状況の把握及び職員の医療安全の認識状況の確認に関すること。 ○ その他医療の安全対策及び医療の質の向上に関すること。 <p>※医療安全に資する診療内容のモニタリングの具体例 3項目(Ⅱ度以上の褥瘡の新規発生件数、24時間以内の再手術件数、術後の肺塞栓発生件数)についてモニタリングを実施し、毎月の委員会にて報告している。</p> <p>※従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例 全職員対象の医療安全研修会において小テストを実施し、医療安全の認識についてモニタリング</p>	

を実施している。また、院内ラウンドにおいて、医療安全に関するトピックスについての周知状況のチェックを実施している。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること
※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・ 活動の主な内容：
 - ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
 - ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・ 活動の主な内容：
 - ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
 - ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 監査委員会の設置状況

有・無

- ・ 監査委員会の開催状況：年2回（予定）
- ・ 活動の主な内容：
 - 附属病院における医療安全管理体制について
 - 特定機能病院の承認要件見直しへの対応状況について
 - 厚生労働省立入検査の指摘事項への対応状況について
- ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）（年1回公表予定）
- ・ 委員名簿の公表の有無（有・無）
- ・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法：

--

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付 す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年265件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年30件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

- 医療の安全管理対策の検討及び推進に関すること。
- 医療安全管理のための職員研修に関すること。
- 医療事故及びインシデントに関する情報の収集並びに原因の究明のための調査及び分析に関すること。
- 前号の分析の結果を活用した改善のための方策の立案及び実施並びに職員への周知に関すること。
- 前号の改善のための方策の実施状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること。
- 入院患者の死亡報告及び3b以上のインシデント報告の実施状況の確認に関すること。
- 前号の実施状況が不十分な場合における職員への研修及び指導に関すること。
- 医療安全マニュアルの作成に関すること。
- その他医療事故防止に関すること。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名： ）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名： ）・無）
- ・技術的助言の実施状況
未実施

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況

病院入口近くの医療連携センター・がんセンター内に相談窓口を設置し、看護相談、医療福祉相談、がん相談、女性専門相談、セカンドオピニオン、要望・苦情等相談を行っており、看護師、メディエーター、MSW、事務職員により対応しており、医療安全に関する相談は医療安全管理室に連絡し対応している。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有・無）
- ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（有・無）

・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ 有 ・ 無 ）

⑭ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 評価を行った機関名：公益財団法人日本医療機能評価機構 評価を受けた期間：認定有効期限2021年9月24日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 ・病院HPを活用して特定機能病院として果たしている役割に関する情報を随時発信している。 ・病院広報誌（鶴舟）を定期的に発行し、来院者や地域住民に対して役割に関する情報を発信している。 ・各種メディアに対して、本院の教育・研究・診療等について情報を発信するため、隔月に1度メディア懇談会を実施している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ○各種院内センターを設置し、各診療科から医師・看護師等を派遣しセンターの運営等を実施することにより、連携して対応に当たる体制が構築できている。 ○院内クリニカルパスを活用し、複数の診療科でチーム医療を推進し協力して対応に当たる体制を有している。 ○患者支援カンファレンスとして、患者相談部門、安全管理部門から、医師、看護師ソーシャルワーカー、ディレクター事務職員が参加し、週一回程度カンファレンスを行っている。	

(様式第 8)

29 岐大病総第 95 号
平成 29 年 10 月 5 日

厚生労働大臣 加藤 勝 信 殿

国立大学法人岐阜大学医学部附属病院
病院長 小倉 真 治

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 医療安全管理責任者を配置するための予定措置

措置済み

2. 医薬品安全管理責任者の活動を充実するための予定措置

措置済み

3. 医療を受ける者に対する説明に関する責任者を配置するための予定措置

措置済み

4. 説明の実施に必要な方法に関する規程を作成するための予定措置

措置済み

5. 診療録等の管理に関する責任者を配置するための予定措置

措置済み

6. 規則第 9 条の 23 第 1 項第 10 号に規定する医療に係る安全管理に資する措置を実施するための予定措置

措置済み

7. 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口を設置するための予定措置

措置済み

8. 医療安全管理部門による医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握及び従業員の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認実施のための予定措置

医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握については、日本医療機能評価機構の臨床評価指標等を参考に内容を決定し、4月1日から実施している。

従業員の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認については、全職員対象の医療安全研修会において、小テストを実施することで確認している。

9. 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門については、「高難度新規医療技術導入審査部門」として、手術部長を責任者として平成29年4月1日に設置した。

10. 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業員が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

平成29年4月1日に以下の規程を施行した。

- ・ 岐阜大学医学部附属病院における高難度新規医療技術等を用いた医療提供に関する規程
- ・ 岐阜大学医学部附属病院臨床倫理室部門会議運営要項

また、上記改訂に合わせて、以下の細則を改正した。

- ・ 岐阜大学医学部附属病院臨床倫理室運営細則
- ・ 岐阜大学医学部附属病院高難度新規医療技術等評価委員会細則

11. 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門については、「未承認医薬品導入審査部門」として、医薬品安全管理者を責任者として平成29年4月1日に設置した。

12. 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業員が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

平成29年4月1日に以下の規程を施行した。

- ・ 岐阜大学医学部附属病院における高難度新規医療技術等を用いた医療提供に関する規程
- ・ 岐阜大学医学部附属病院臨床倫理室部門会議運営要項

また、上記改訂に合わせて、以下の細則を改正した。

- ・ 岐阜大学医学部附属病院臨床倫理室運営細則
- ・ 岐阜大学医学部附属病院高難度新規医療技術等評価委員会細則

13. 監査委員会を設置するための予定措置

規則の制定及び委員の人選を進め平成29年4月1日に設置し、平成29年7月31日に第1回外部監査委員会を開催した。

○監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
大畑 敦美	弁護士法人森川・鈴木法律事務所		法律に関する識見を有する者	有・ 無	1
千田 隆夫	岐阜大学監査室		本学監査室長	有・ 無	3
富田 栄一	岐阜市民病院	○	医療に係る安全管理に識見を有する者	有・ 無	1
松山 俊博	(一社) 岐阜市医師会		医療を受ける者	有・ 無	2
王 志剛	岐阜大学		学長が必要と認める者	有・ 無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

○監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	(有)・無
委員の選定理由の公表の有無	(有)・無
公表の方法 岐阜大学医学部附属病院ホームページ (https://www.hosp.gifu-u.ac.jp/guide/gaibu_kansa.html)	

14. 他の特定機能病院の管理者との連携による立入り及び技術的助言を遂行するための予定措置

国立大学付属病院長会議において、相互チェックおよびピアレビューが行われることとなり、本年度、受入は10月30日（旭川医科大学）、立入は11月6日（広島大学）に実施予定である。

15. 職員研修を実施するための予定措置

全職員を対象に実施されている医療安全研修会に追加された必須項目を盛り込んで平成

29年度から実施する予定である。

16. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

公益財団法人日本医療機能評価機構が主催する「平成29年度特定機能病院管理者研修」に参加予定である。

17. 医療安全管理部門の人員体制

- ・所属職員：専従（3）名、専任（1）名、兼任（9）名
 - うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（4）名
 - うち薬剤師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（1）名
 - うち看護師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（2）名
- ※ 報告書を提出する本年度の10月1日現在の員数を記入した。

18・医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

医師及び看護師はすでに専従職員を配置している。薬剤師についても平成30年度4月1日から専従職員を配置予定である。